



北九州市の市街地を流れる板櫃川は、流域に山地部を多く抱えていることから、自然が豊かで、中流域まで天然アユが遡上しています。昭和28（1953）年の西日本水害を契機に進められた治水事業でコンクリート護岸による都市水路的な景観となっていました。地元地域では古くから河川愛護活動が盛んに行われていました。このような背景から、平成元（1989）年の「ラ



水辺の楽校整備前



水辺の楽校整備後

ブリバー制度」の創設と同時に認定を受けるとともに、沿川住民で構成する「かわばた会議」を組織して、市民参加型の川づくりに取り組んでいます。上流部では、昭和63

（1988）年度以降、「水と緑と歴史を生かしたプロムナードづくり」を目指した河川環境整備事業が進められ、特に八幡東区高見地区では平成8（1996）年度から「桜と水辺とふれあいの街」をテーマに、板櫃川のせせらぎを生かしたまちづくりを行っています。また、平成9（1997）年度には「水辺の楽校プロジェクト」の指定を受け、現在では地域主体の「板櫃川水辺の楽校の会」を中心に、都市の貴重な自然環境の維持管理

や地域のイベント、環境教育など、水辺を活用した地域活動が展開されています。

この板櫃川水辺の楽校は、平成20（2008）年度の手づくり郷土賞、平成22（2010）年の土木学会デザイン賞奨励賞を受賞するなど、その活動が評価されています。



現在の板櫃川水辺の楽校